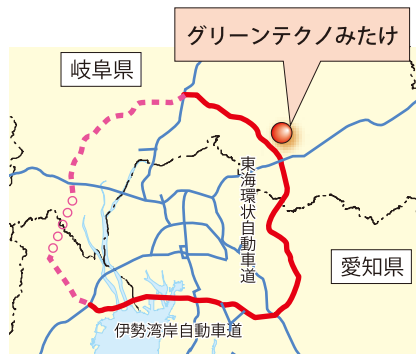


(2) 輸送時間の短縮や輸送コストの削減

輸送回数の増加と物流コストの削減

- 豊田市内の組立工場に自動車部品を納入しているC社は、2003年に岐阜県御嵩町の工業団地「グリーンテクノみたけ」に進出しました。
- 2005年に東海環状自動車道が開通すると、それまで片道2時間だった所要時間が1時間に短縮され、使用するトラックを4台から2台に、運転手を8人から4人に削減することが可能となりました。その結果、年間4千万円の物流コストが削減されています。

●グリーンテクノみたけ位置図

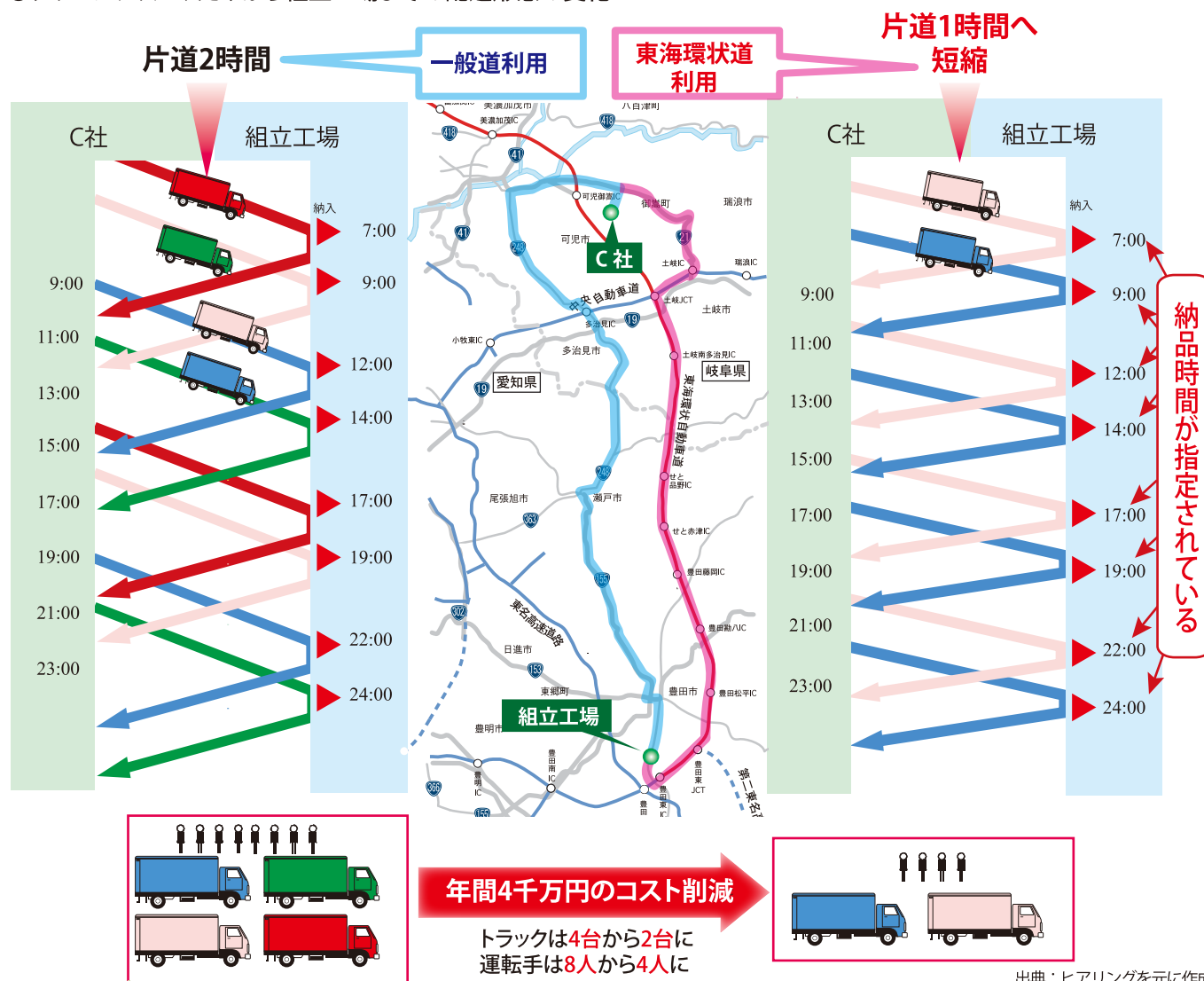


みたけ工場 出典：自動車部品工場C社HP



グリーンテクノみたけ 2007年2月撮影

●グリーンテクノみたけから組立工場までの配送形態の変化



輸送回数の増加

- 自動車の主要メーカーであるD社では、豊田市内の工場から自動車部品を、名古屋港を利用して国内外へ出荷しています。
- 伊勢湾岸自動車道の開通により、1日の輸送回数が2回から3回に増加しました。

● 豊田工場から名古屋港への自動車部品の輸送ルート



● 伊勢湾岸道開通による効果 (自動車部品)



出典：D社資料をもとに作成

所要時間・出発余裕時間の短縮、輸送回数の増加

- 東海環状自動車道の開通によって、多くの企業が輸送ルートを変更し、輸送時間の短縮や輸送回数の増加などの効果が生まれています。

● 製造業E社の場合



東海環状道開通前は中央道→東名高速を利用。
現在は中央道→東海環状道を迂回路として利用。

● 製造業F社の場合



通常時は一般道(国道19号、国道419号など)を利用。
繁忙期は中央道→東海環状道を利用。

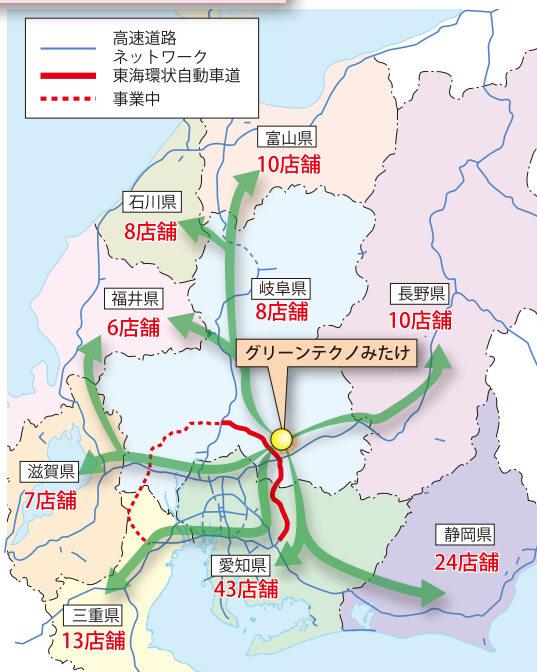
出典：ヒアリングを元に作成

配送時間の短縮と配送効率の向上

- 従来、外食産業 G 社では、中部地方の各店舗への配送は関東・関西の工場から行われていました。
- 中部地域の店舗数の増加により、東海・北陸地方へのアクセスの良い東海環状自動車道沿線にある岐阜県御嵩町の工業団地「グリーンテクノみたけ」に進出し、中部地域 9 県 129 箇所の配送が可能になりました。
- 東海環状自動車道の開通後は、工場から各店舗への配送時間が短縮し、より効率的な配送が可能となっています。(配送ルート of 組み換え、配送頻度の増加)
- また複数のルート選択が可能となったことから到着時間の信頼性も向上しています。

●工場からの配送エリア

高速道路ネットワークを活かし、9県・129店舗に毎日配送が可能。

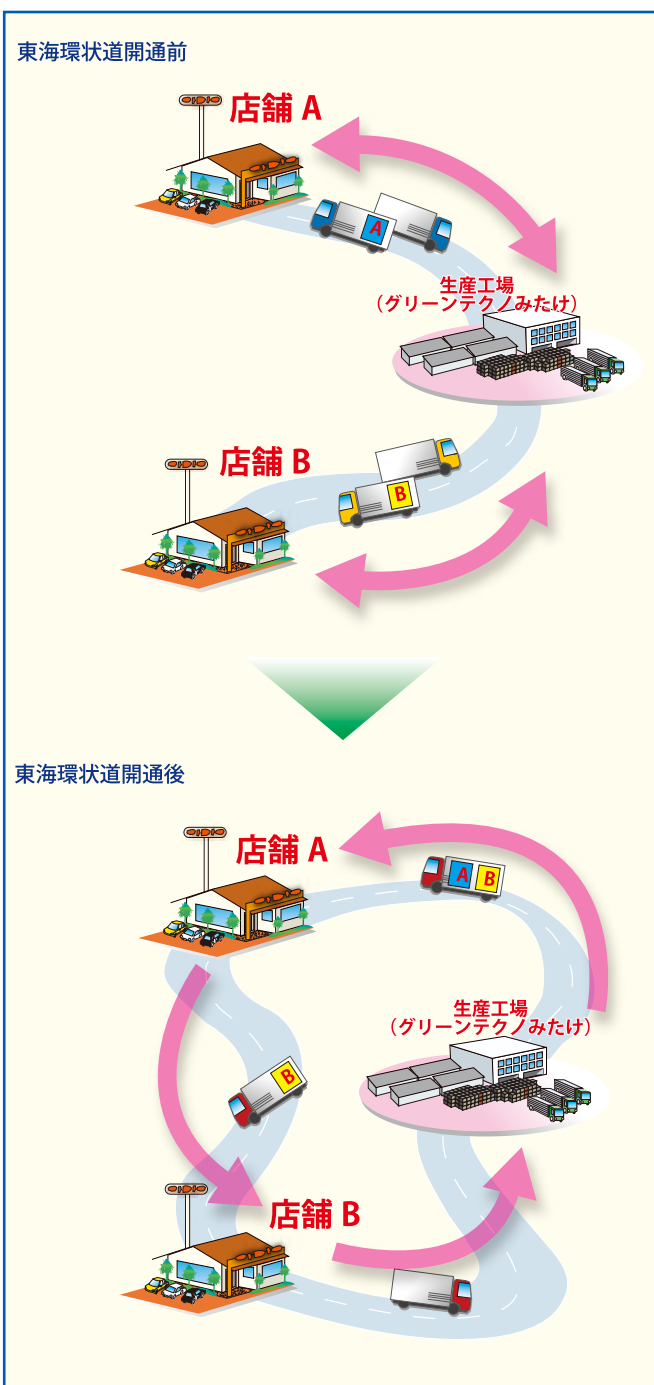


●北陸方面へのルート選択例

異常時でも別ルートが選択可能に。



●配送ルートの効率化イメージ



魚類の輸送時間の短縮と鮮度の保持

- 三重県志摩半島南部の漁港と名古屋など大消費地とを結ぶ国道 260 号錦峠道路は、2006 年 3 月までに全長 6.7km の内、4.9km が完成しました。
- 全通すると、旧道に比べ所要時間が約 30 分短縮されるとともにカーブ等の減少により鮮度の保持が可能となることから、出荷額の増大と消費地での競争力の向上が期待されています。



整備前



整備後



配送経路の転換

- 国際物流企業H社では、中部国際空港の開港および中部地区における精密機械・自動車部品等の中国向け貨物需要の高まりに対応し、2005 年 5 月より上海向け直行便を 5 便新設しました。
- これに伴って中部地区の集荷時間を最大 6 時間程度延長し、翌日午前 2 時発の早朝便に搭載し、上海向け貨物の翌日配送サービスを提供しています。
- また、従来成田空港を経由して発送していた静岡と塩尻の営業所の欧州・上海向け輸出貨物は高速道路を活用して中部国際空港に輸送しています。

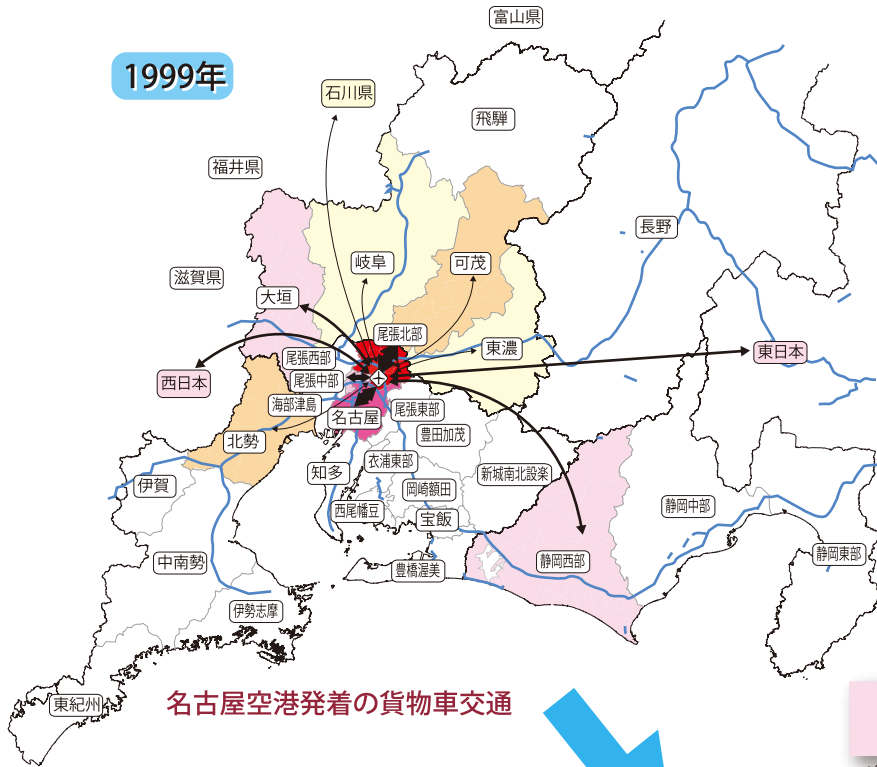
● 成田空港から中部国際空港への配送経路の転換



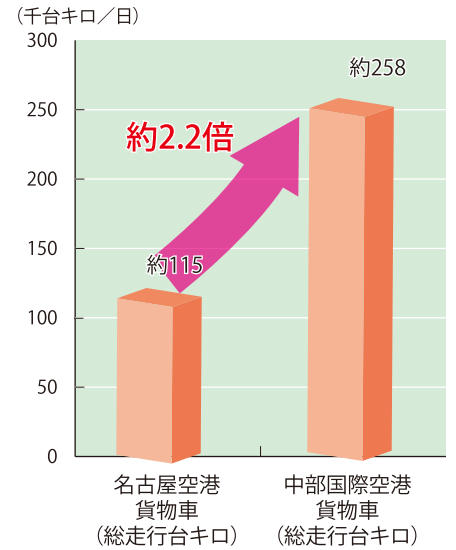
物流交通の広域化

- 中部圏では 2005 年の中部国際空港の開港に伴い、空港発着の貨物車交通が急増しました。
- また航空貨物の発着地域も、名古屋空港時代と比べると、特に三重県や長野県などより広範な地域にまで広がっており、高速道路ネットワークを利用した貨物車輸送の広域化が見られます。

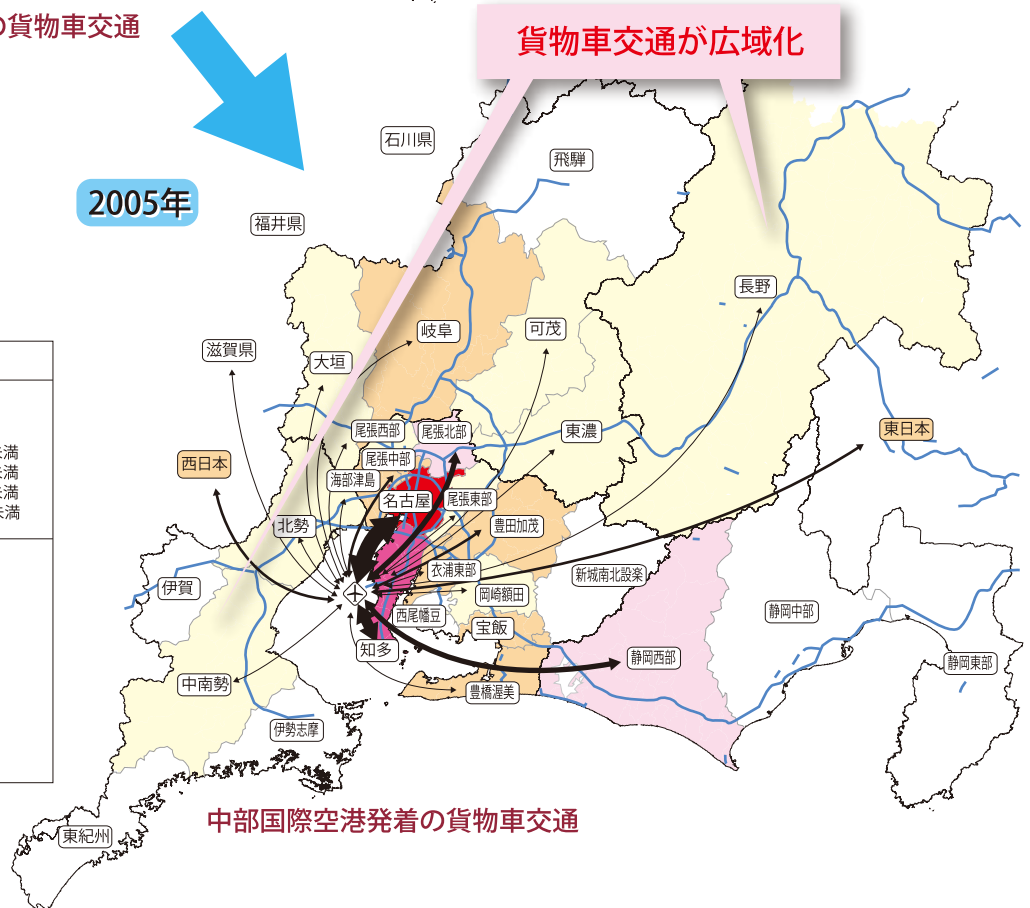
● 空港発着の貨物車交通の変化



● 空港発着の貨物車の総走行台キロの変化



凡例	
空港発着の普通貨物車の交通量	
最太線	400台/日以上
太線	250台/日以上 400台/日未満
中太線	100台/日以上 250台/日未満
細線	50台/日以上 100台/日未満
最細線	10台/日以上 50台/日未満
空港発着の普通貨物車の全交通量に対する割合	
赤	20.0%以上
赤紫	10.0%以上 20.0%未満
紫	5.0%以上 10.0%未満
黄	2.0%以上 5.0%未満
黄緑	1.0%以上 2.0%未満
白	1.0%未満



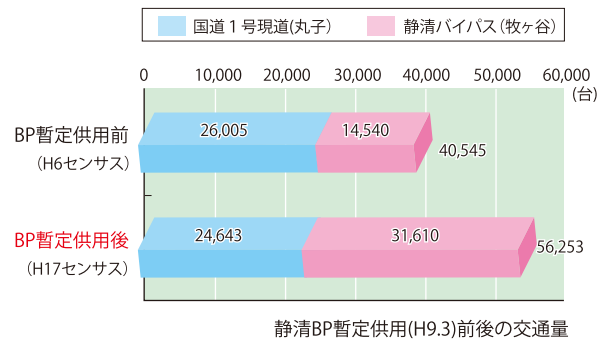
配送効率の向上、配送コストの削減

- 静岡市内の国道1号では、静清バイパスの供用により、現道の渋滞が緩和されました。
- これによって家電製品製造I社では、工場から近接倉庫までの定時性のある多頻度輸送が実現し、量販店等の注文に応えられる細かな在庫調整が可能となりました。
- また、従前在庫調整を行っていた大都市配送センターを廃止するなど、輸送コストも26%削減されています。

● バイパス位置と交通量観測箇所

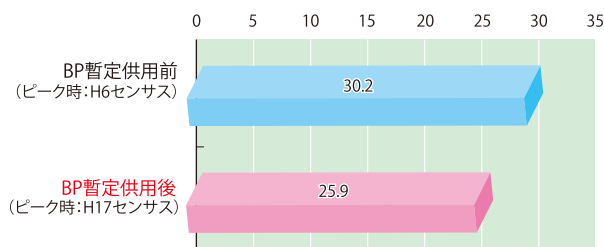


● バイパス供用に伴う交通量の変化

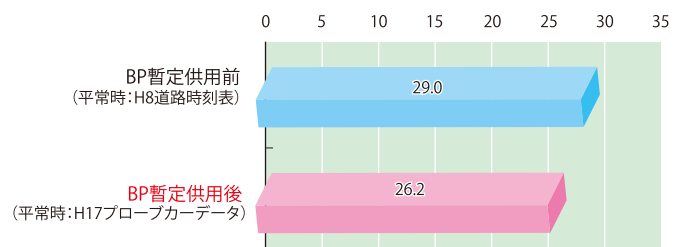


● 国道1号の所要時間の変化

工場～倉庫区間のうち、国道1号のピーク時所要時間の変化

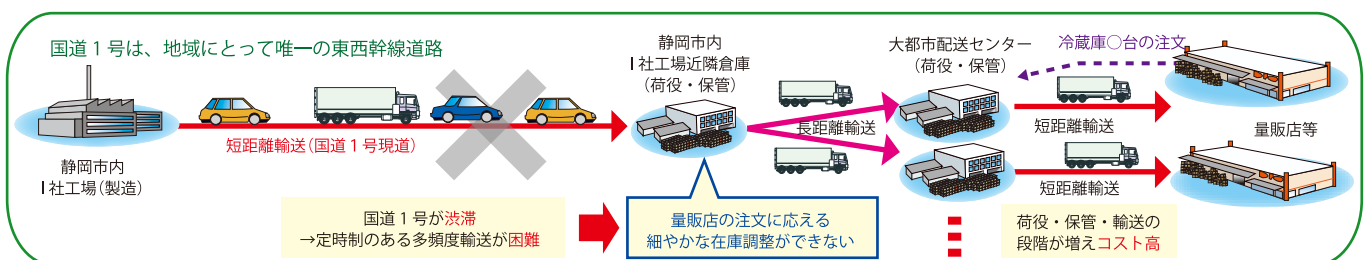


工場～倉庫区間のうち、国道1号の平常時所要時間の変化



● 工場から店舗までの配送方法の変化

〈バイパス供用前〉量販店への配送は都市圏毎の配送センター経由で対応



〈バイパス供用後〉量販店への直送便による配送を実現

